

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2021年7月12日】第90号



緊急事態宣言の再発出

新型コロナウイルス感染拡大が続いています。農大稲花小の所在地である東京都に、7月12日(月)から8月22日(日)までの間、「緊急事態宣言」が発出されました。4回目の緊急事態宣言です。本校では、感染防止を第一としつつ、子どもたちの学びを止めないように、また、こころとからだの発達を妨げることがないように努めてまいります。感染防止は、学校だけでなく、ご家庭の協力が欠かせません。子どもたちも、マスク、手洗い、手指消毒、ソーシャルディスタンスなどの基本はもちろんのこと、給食の黙食などの必要性を理解し、頑張っています。1学期は間もなく終わり、夏休みとなります。9月1日(水)の2学期始業式に不安なく子どもたちが登校し集団生活を開始できるよう、夏休みの計画にもご配慮いただくようお願いします。

避難訓練

7月5日(月)、1時間目が始まる前の朝読書の時間中に地震が発生したという想定で、避難訓練を行いました。まず、地震が発生したことを伝える校内放送により、子どもたちは頭を守り、すばやく机の下にもぐって待機しました。その後、体育館へ避難するようという指示により、学級ごとに整然と避難した子どもたち。訓練とはいえ、その表情は真剣で、おしゃべりもほとんど聞こえませんでした。

晴れていればグラウンドに避難する予定でしたが、当日は雨のため、体育館に集合としました。避難にかかる時間の計測、放送の聞こえ方や避難経路の確認、教員の役割の再確認など、短い避難訓練でしたが、次回に活かす気づきもありました。

地震などの災害は、家庭や学校にいるときに起きるとは限りません。通学時間が長く、経路も多岐にわたる本校の子どもたちです。避難訓練と同様に、保護者と児童とで登下校の経路を確認し、安全について考える機会を作るのはいかがでしょうか。

よりよい給食のために

農大稲花小では、食育の一環としての給食を大切に考えています。調理は校内の給食室で行う自校式で、子どもたちにも人気の給食となっています。とはいえ、給食の安全で安定した運用のためには、様々な知恵や工夫がいつでも必要です。7月6日(火)には、東京農業大学栄養科学科の鈴野弘子教授と池田昌代准教授に視察をお願いしました。フードマネジメント、給食の経営管理

やオペレーションシステムに関する専門家として、専門的な立場からのご助言をいただくためです。当日は、給食を調理している給食室の現場、児童による配膳や喫食の様子などをご覧いただきました。これからもご意見を伺いながら、農大稲花小ならではの給食の体制を作っていこうと考えています。

東京農業大学 応用生物科学部栄養科学科

食品栄養学分野 フードマネジメント研究室

<https://www.nodai.ac.jp/academics/app/nutri/lab/804/>

手を洗おう

7月8日(木)、2年生の稲花タイムでは、「手を洗おう」と題した授業を行い、ゴージョージャパン株式会社 和賀康子様をゲストティーチャーにお招きしました。

伝染病やウイルスについて校長からの導入を行い、それに続いて和賀様から手洗いの大切さについての授業がありました。次に、蛍光塗料の入ったチェック用クリームを手に塗り、ウイルスや菌で汚染された手と想定します。その後、子どもたちはそれぞれに手を洗ってから、紫外線ランプの下に手をかざし、蛍光塗料が取れているかどうかを見ることで、手洗いの効果を知る実験を行いました。雑に洗っただけでは手がきれいにならないこと、手のどのあたりに洗い残しが出やすいのかなどを楽しく学びました。なお、学習後に子どもたちは、ゴージョージャパン株式会社より持ち運び用ストラップのついた手指消毒用ジェル「ピュレル」をいただきました。

ゴージョージャパン株式会社

<https://www.gojo.com/ja-JP/About-GOJO>

今月の昆虫標本

毎月、一財社団法人進化生物学研究所からご提供いただいている素晴らしい昆虫標本ですが、7月は細長い大あごが特色で東南アジアに見られるホソアカクワガタの仲間、そして、アフリカのクワガタムシの標本が農大稲花小にやってきました。標本箱にいっぱいのクワガタムシを見ると、同じ種でも、色や大きさが違うことに驚かされます。



「多様性」という言葉は知らなくても、子どもたちがこの標本に魅惑されるだけでなく、何かに気づくことがあるものと期待しています。

一財社団法人進化生物学研究所

<https://www.nodai.ac.jp/rieb/>

校長 夏秋 啓子